

時期を違えず現れるもの

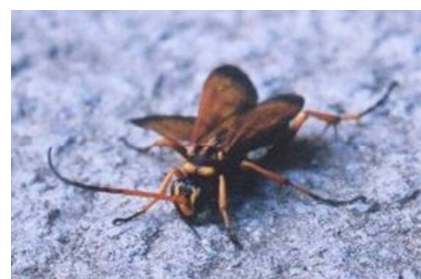
生物季節

開花や出現などの生物現象から季節の進み具合の傾向をみるものとして、関心をもたれています。年毎の記録を残していくと、地球温暖化などの傾向を知ることにもなります。打吹山では、アブラゼミの初鳴きは7月15日前後ですが、ヒグラシは7月初旬と同じ場所でも種によって異なります。また、ヒグラシでも山間地は6月下旬であり、同じ場所で記録していくことが必要です。

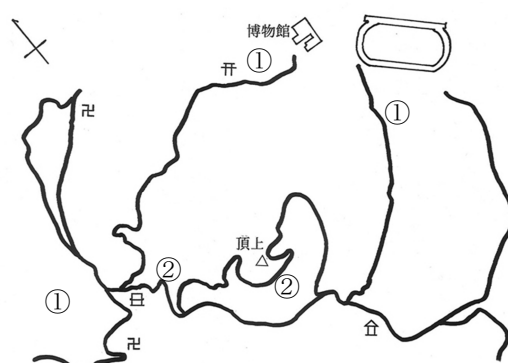
1. ベッコウバチの交尾集団 (地図中①地点)

7月になると、鎮霊神社右横の犬走りの周りを茶黒色のハチの群れが飛び交います。これらは全てベッコウバチの雄で、刺すことはありません。雌を待っているのです。止まった個体がいると上に乗って交尾をしようとします。拒否されてはまた飛び回ります。このように集団をなす場所が、長谷八十八ヶ所奥下の段や相撲場の観覧席など所々にあります。

狩り蜂はグループごとに獲物が決まっているものが多く、ベッコウバチの仲間はクモを狩るため、クモバチとよばれます。雌はクモを探して単独で藪を徘徊し、見つけたクモを針で刺して麻酔し、幼虫の餌にします。地面に開けた穴の中まで引きずって帰ると1個産卵し、穴を埋め戻します。卵は翌年この時期に成虫となって出てくるのです。



ベッコウバチ



2. 夏が盛期のキノコ=イグチ (地図中②地点)



ベニイグチ

キノコは秋のイメージが強いのですが、イグチの仲間は夏が中心です。大型のものも多く、遊歩道を歩いていてもよく目立ちます。傘の下側がひだではなく、管孔になっていますので、わかりやす仲間です。また、食菌と毒菌があります。

大型のアカヤマドリは食菌ですが、倉吉では見向きもされません。成長は早く、数日の間に傘の直径が20 cm以上になります。大きくなると虫が食べていることが多く、傘の開かないうちが食べごろです。



アカヤマドリ

傘の色がきれいなベニイグチ、傷を付けると濃青色に変わるイロガワリ、巨大なコゲチャイグチなど、いろいろなイグチに出会えます。この時期ならではのにぎわいです。